



取材で伺った東京・用賀にある直営のレストラン。

らの加工品は関連のショップやレストランのほかネットでも販売されています。いいところ取りではなく、誰も犠牲にしないので、つくる、加工する、売るまでの一貫した取り組みが信頼感を高めています。

るように思います。由井：全部繋がっていますからね。いずれは住まいや衣料の分野でもやりたいと思っています。例えば、虫が苦手なハーブの繊維で服を作れば、虫が付かない服を

— そういった自然を生かそうという一貫した姿勢と商品化するアイデアがすごいですね。由井：田舎の貧乏な家で育ちましたから、家では化学肥料は買えなかったわけですから自然を生かす知恵だけは身に付いたんですね。昔の人の知恵を使えばいい、そうすれば何も捨てるものはないと思っていました。安全な食を手にする

— ありがとうございます。農業をやるということは、本当に幅が広いというか、由井さんにとつてやりたいことの根幹を支えることになっているんですね。由井：百姓という意味は、百の仕事をするということです。物となる材料が自然であることが大切です。私たちの商品のほとんどは農業に由来したものです。もちろん、化粧品の中には寒天を使ったジェル商品などもありますから、海産物ですが、できるだけ自然素材だけで作っています。

— ありがとうございます。農業をやるということは、本当に幅が広いというか、由井さんにとつてやりたいことの根幹を支えることになっているんですね。由井：百姓という意味は、百の仕事をするということです。物となる材料が自然であることが大切です。私たちの商品のほとんどは農業に由来したものです。もちろん、化粧品の中には寒天を使ったジェル商品などもありますから、海産物ですが、できるだけ自然素材だけで作っています。



【プロフィール】  
由井 寅子 (ゆい・とらこ)

1953年、愛媛県生まれ。農林。農業生産法人・日本農受自然農株式会社代表。日本ホメオパシー医学協会会長。カレッジ・オブ・ホリスティック・ホメオパシー学長。プラクティカル・ホメオパシー大学大学院(英国)卒業。英国ホメオパシー医学協会名誉会員、英国ホメオパス連合認定ホメオパス。ホメオパシーの実践とホメオパシーの創始者・ハーネマン研究で海外から高い評価を得ており、指導的なホメオパスとしてホメオパシー普及の牽引役として活躍。医食同源、人間の身体は食べたものでできているという根本に立ち返り、2004年に農業生産法人を設立。無農薬・無化学肥料・自家採種にこだわった野菜やハーブづくりに取り組む。著書・訳書多数。主な著書に『ホメオパシー的信仰』(ホメオパシー出版)、『毒と私』(幻冬舎メディアコンサルティング)など。

— 食と住の違いはありますが、お話を伺ってとても感銘を受けました。今日は本当にありがとうございます。

— ありがとうございます。農業をやるということは、本当に幅が広いというか、由井さんにとつてやりたいことの根幹を支えることになっているんですね。由井：百姓という意味は、百の仕事をするということです。物となる材料が自然であることが大切です。私たちの商品のほとんどは農業に由来したものです。もちろん、化粧品の中には寒天を使ったジェル商品などもありますから、海産物ですが、できるだけ自然素材だけで作っています。

— OMもそうですが、由井さんもホメオパシーに関する書籍をたくさん出されています。一言ではなかなか伝えられないという点で、勝手ながら共通するものを感じています。由井：そうですね。本もいろいろありますが、やっぱり、ここ(レストラン)に来てもらうとか、実際に体験してもらおうとか、講演に来てもらうとか、本の中の知識だけでなく、行動することでそこからようやく始まるんです。

— ありがとうございます。OMさん最初から順風満帆だったわけじゃないですよね。「誕生物語」を読ませていただきました。私も日本では先駆者ということになります。2000年頃に物質がなくなるまで薄めるホメオパシーを初めて提唱されたハーネマンさんはそれこそキチガイ

扱いだつたと思います。— それでも続けてこられたのはやはり、大勢の体験者がいたからに他なりません。由井：自然エネルギーを使いたい、自己治癒力を生かしたいと思う人が後を絶たないからです。この本のタイトルは「きづき」ということですが、一つでも気付くことができれば、次々に気付くことができます。自分の身体のこと、住まいのこと、食、着るもの、エネルギーや環境のことも全部繋がっているんです。とくに小さなお子さんがいるお母さんは健康に対する意識が高いです。アトピーや喘息が良くなった、アレルギーが

— 作られた野菜や穀物、ハーブやそれ何も捨てるものはない。改善したなどの声が上がればあつという間に広がります。健康は全てに繋がっています。でも全部はできないもの現実です。田舎に住みたくても仕事の関係で移住できない、経済的な理由も含め、皆折り合いをつけながら生きています。ここも環八沿いのあまり良くない環境ですが、農場とのアクセスを考えると悪くない。外の環境は悪くても一歩建物の中に入れば自然なもので作られているので良い環境に身を置くことができます。



レストランに併設されたショップ。野菜のほか、加工品、化粧品など、たくさんの品揃え。



レストラン、ショップの外観。既存のビル(自動車のショールーム)をレストランとしてリニューアルした。